

令和6年10月3日

(報道発表資料)

京都市文化市民局
〔担当 元離宮二条城事務所〕
〔TEL (075)841-0096〕

「二条城障壁画 展示收藏館」原画公開 令和6年度秋期
シリーズ二条離宮の時代

葵から菊へ ～〈白書院〉一の間・二の間～

元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示收藏館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開しています。この度、秋期原画公開「葵から菊へ ～〈白書院〉一の間・二の間～」を開催します。今回は、離宮となった際に天皇の御座所とされ、室内の飾り金具が葵紋から菊紋へと変えられた〈白書院〉一の間・二の間の障壁画を公開します。

是非、この機会に二条城へお越しく下さい。

1 会期

令和6年10月10日（木）～12月8日（日）〔60日間〕

2 入館時間

午前9時～午後4時30分（閉館は午後4時45分） ※二条城の入城受付は、午後4時まで。

3 会場

元離宮二条城内 二条城障壁画 展示收藏館

（〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地）

※二条城にお越しの際は、公共交通機関を御利用ください。

4 入館料

100円（未就学児無料）

※別途入城料が必要。

※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方（敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方）、各種障害者手帳等をお持ちの方の入館料は、不要です。

5 公開作品

(1) 〈白書院〉一の間・二の間障壁画《西湖図（せいこず）》 (障壁画面数：29面)

《撫子図（なでしこず）》 (障壁画面数：4面)

(2) 解説及び見所 裏面のとおり

6 お問合せ先

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

〔〒604-8301 京都市中京区二条通堀川西入二条城町541番地〕
〔TEL：(075)841-0096 FAX：(075)802-6181〕

葵から菊へ ～〈白書院〉一の間・二の間～

慶長8年（1603）、二条城は、江戸幕府を開いた徳川家康（1543-1616）によって創建され、寛永3年（1626）の後水尾天皇（1596-1680）^{ぎょうこう}行幸のため、城域が西に拡張されるなど大改修されました。慶應3年（1867）10月、15代将軍慶喜（1837-1913）は、二の丸御殿で大政奉還の意思を表明し、朝廷がこれを認めたことで250年に渡る徳川幕府の時代が終了しました。

明治17年（1884）、二条城は、天皇の別邸である離宮^{りきゆう}となり、名称を二条離宮に改められます。これにより、主人が天皇へと変わりました。同30年代にかけて、皇室の宮殿にふさわしいよう、宮内省によって二の丸御殿の修繕がされました。

二の丸御殿の最も奥に位置する〈白書院〉は、江戸時代に「御座の間」と称され、将軍の居室として使用されました。二条離宮になった後、〈白書院〉は、新たな主人である天皇の御座所となりました。二の丸御殿の中には、いたる所にかつての主人、徳川家の家紋である「三つ葉葵紋」が飾り金物に散りばめられており、〈白書院〉も同様の設えがされていました。しかし、新たな主人である天皇がゆったりとくつろぐ〈白書院〉に、「三つ葉葵紋」はふさわしくありません。そのため、明治天皇を迎える準備として、明治19年に〈白書院〉だけは、^{ごうてんじょう}格天井の^{つじかなもの}辻金物や^{ちやうだいがまえ}帳台^{ふちかなもの}構の縁金物にあった「三つ葉葵紋」が、上から^{かぶ}被せたり、取り替えたりして「菊紋」に変えられました。また、年代は不明ですが、襖の引手金具も、菊紋を施したものに取換えられました。

〈白書院〉は、他の棟を^{いろど}彩る^{きんぺき}金碧障壁画と異なり、水墨画で障壁画が描かれます。湖岸の風景が俯瞰して描かれ、落ち着いた雰囲気が演出されています。この湖は中国浙江省に実在する名所の西湖で、西湖図は日本において室町時代以降に好んで描かれた、水墨画を代表する画題の一つです。水墨による山水図は、最も格式の高い場所に描かれることが多く、白書院一の間、二の間の部屋の格式に呼応して、西湖図が描かれたと考えられます。^{ちがいだな}違棚を除けば、どの画面も下部を水辺としており、湖上に浮かべた船に乗って岸辺を見渡すような景観が、部屋の中に広がります。



〈白書院〉一の間《西湖図》（部分）